

うじいえ 自然に親しむ会だより

第6号

平成17年12月9日

編集・発行

うじいえ 自然に親しむ会事務局

さくら市ミュージアム

荒井寛方記念館内

3団体との交流始まる

会長 加藤 啓三

☆ 「ギフチョウを守る会」を訪問

(神奈川県藤野町のギフチョウは神奈川県の天然記念物)

当会の中村和夫顧問を含む4名が、9月25日(日)、乗用車で4時間かけ藤野町の現地に出向きました。ギフチョウを守る会の山崎常夫会長より、ギフチョウのビデオや保護活動について話を伺いました。

毎年、3月から6月にかけて、1日2名の当番を決めて神奈川県教育委員会と「ギフチョウを守る会」が中心となって、ギフチョウの採集を監視している等の活動についてお話を伺いました。

来春はギフチョウの舞う藤野町に再度出向きたいと、帰途の車中で思いました。

☆ 「はむら自然の友」一行が視察に

(東京都羽村市 多摩川の河川敷で20年前からカワラノギクの保全に取り組んでいる団体)

10月14日岡崎学会長を含む25名が、東京からバスで氏家の鬼怒川河川敷に咲いているカワラノギクを視察に見えました。

当日は国土交通省下館工事事務所の宇梶実所長の案内で、氏家大橋上流にある実験地2箇所を視察しました。

参加者の中からは、「多摩川のカワラノギク」に比べて、草丈、枝分かれ、花の数や色などがきれいで、すばらしいとの驚きの声が聞こえました。

(この内容については11月12日発行の「さくらプレス18号」に記事が掲載されました。)



鬼怒川のカワラノギク



「はむら自然の友」
のみなさん

☆ 「水環境条例制定ネットワーク」

10月16日北村恭子代表を含む20名が、ゆうゆうパークにおいて「鬼怒川の自然再生を学ぶ観察会」を開催し、本会も講師として参加しました。

本会の案内で、ミヤコグサ管理地と東京大学保全性生態学研究室のカワラノギク管理地を観察しました。

特にカワラノギクのみごとな群生と開花を目の前にして、参加者は「初めての体験」と驚いていました。（「さくらプレス」に記事が掲載されました。）



協力事業について

さくら市民生委員児童委員協議会連合会（山口政志会長）の「心豊かな子どもを育てる児童健全育成事業」（全4回）に本会も協力しました。

☆ 第1回 「昆虫採集と標本づくり」

7月31日（日）さくら市ミュージアムと共催で行われ、午前中は勝山公園とゆうゆうパークで昆虫採集を行いました。

昼食後は、さくら市ミュージアムの研修室でホタルの発光実験を行い、その後、自分で捕らえた昆虫を標本にしました。

おみやげは、佐藤薫さん（本会顧問）が育てた「黒メダカ」をもらいました。



☆ 第2回「植物観察会」を開催

10月1日（土）喜連川の「お丸山公園」で、午前中はクマザサ、コウモリ、カズラ、トキホコリなど63種類の植物を観察し、午後は重曹で木の葉を煮込み歯ブラシを使って葉脈を取り出し、パウチで「しおり」に仕上げました。



☆ 第3回「探鳥会」開催

11月6日（日）日本野鳥の会栃木支部と共催で、勝山公園とゆうゆうパークで「探鳥会」を実施しました。冬鳥を観察しようと集まった小学生は10名でしたが、初めて見る望遠鏡でのアオサギ、カワセミ、ジョウビタキなどの羽の色や動きに驚いていました。



探鳥会に参加のみなさん

☆ 第4回「勝山の森で遊ぼう」（焼き芋とバウムクーヘンを作ろう）

さくら市ミュージアム「みんなのひろば」と共催で小学生85名が参加し、にぎやかに焼き芋を作ったり、青竹を回しながらバウムクーヘンを作ったり、落ち葉の積もったガケを滑り降りたり、竹とんぼを飛ばしたり、縄文時代の火おこしにも挑戦しました。

お昼には「そよかぜ」（ボランティアグループ）が作った豚汁と焼き芋やおいしく焼けたバウムクーヘンをいただき、子どもも大人も楽しい1日を過ごしました。

